

鹿本高校 Class REPORT Vol. 1



「問い」に始まり「問い」に終わる授業

伊勢崎 文 (いせざき あや) 教諭

地学の伊勢崎先生による「プレートテクトニクス」の授業。火山が好きで阿蘇を研究するようになったという伊勢崎先生。「ホットスポット」と海に並ぶ島々の配列から「プレート」が動いている証拠を考えさせる。何千万年という単位の壮大な地球の現象を模式的に示しながら、その現象がなぜ起きているのか「問い」を重ね、生徒に推測させることにより、地球の壮大なドラマをどのように科学者がとらえてきたのか教室で再現される。

【日時】
令和5年5月15日(月)
第2校時

【クラス】
普通科2年4組

【本時の目標】
プレートが動いている証拠について、火山や海山の線状配列を例に理解する。

【教材名】
地学基礎(第一学習社)

課題を提示し、その問いへの答えを予測させ



Google Earthやワークシートでハワイ諸島の配置を示す。



モデルを使って、現在分かっていることと分かっていないことを説明。



グループワークのGoogle Jamboardを表示し、コメントしながらまとめを行う。



挨拶・導入 本時の課題の提示 展開1(「現象の確認」→なぜ?) 展開2(「現象の確認」→なぜ?) まとめ 振り返り(リフレクション)



テスト形式のワークシートに解答し、その後、先生の問いに生徒が答える形で前時の復習を行う。



先生の問いに、個人で考えた後にはペアでシェア。



問いが深まるとグループワークへ移行。グループの一人はGoogle Jamboardにまとめる。



リフレクションシートに気づきや新たな問いを記入。

主体的・対話的で深い学びを目指して

伊勢崎先生の授業では、個人で考え(T)、ペアで共有し(P)、その後クラス全体で共有する(S)という「TPS(Think, Pair, Share)」の手法が頻繁に使われる。そして、ペアワークで生徒たちが何を話しているか耳を傾ける。時には「それは何故?」と、さらに深く考えさせたり、生徒の中に発生する新たな「問い」や関連するキーワードを探す。本時はハワイ列島の配列を例にとっているが、これは前時に「ハワイは



日本に近づいている」という生徒の発した言葉を拾い上げての授業だった。

リフレクションシート

生徒の発する問いや言葉を拾い上げる工夫はリフレクションシートにも見られる。その中には「感想」「新たな気づき」「新たな問い」の3項目があり、毎時間授業の終わりに生徒が記入することになっている。伊勢崎先生は生徒の書いたこれらの項目を参考に次の授業の展開を考えるのだ。

生徒の問いを中心に進め、問いで終わる授業

このような生徒の問いを大切にしながら進める授業を通して、先生は

「生徒の問いの質」を高めたいと言う。このような授業を続ける中で、生徒の問いの数は増えてくる。その中に探究につながるような深い問いが出てくることを目指している。

メッセージ

伊勢崎：地学は、地震・火山・気象・天文・地球の歴史などいろんな側面があります。ですから地学の授業を通して、生徒には地学の面白さと大事さを感じてほしいと思っています。それも与えられた面白さではなく、自分の中で膨らませながらそう思ってもらいたいです。これも「問い」につながるんですけどね。